

# よみさんぽ

大宮見沼



第9号

写真家 野口勝宏

やどかりの里発！ 地域発見マガジン

特集 **子育て** **しながら** **自分育て**  
子育てママも 自分らしく イキイキと

編集 公益社団法人やどかりの里「大宮見沼よみさんぽ」編集委員会

# 特集

## 子育てしながら自分育て

子育てママも 自分らしく イキイキと



小林あゆみさん

(合同会社「ままの\*えん」代表)

今回インタビューした小林あゆみさんは、合同会社「ままの\*えん」の代表であり、「よみさんぽ」にもたびたび登場しているアートフルゆめまつり<sup>注)</sup>の事務局員の1人。小林さんとの出会いもやはり、アートフルゆめまつりがきっかけだった。この「よみさんぽ」第6号で、アートフルゆめまつりの事務局3人へインタビューをお願いした時も、快くご協力いただいた。母として、妻として、そして1人の女性として、何足ものわらじを履きこなす、エネルギッシュな小林さんがとても魅力的に映った。その時から、代表を務める「ままの\*えん」の活動や、小林さんご自身のことをお聞きしてみたいと思っていた。

小林さんが自身の子育て経験を背景に「ままの\*えん」を立ち上げたのは、2010（平成22）年。「ままの\*えん」は、子育て中の女性が自分らしいライフスタイルを築き、眠っているスキルや能力を発揮しながら、イキイキとした毎日を送ることができる社会を目指すことを目的に設立された合同会社である。

注) 音楽やアートを通じた街づくりを目指し、大宮駅周辺で行われるお祭り。ボランティアな市民による実行委員会形式で運営されている。

そのために、さまざまな企画を立ち上げ、子育てしながらの「自分育て」のためのサポートをしている。

### 「ままの\*えん」立ち上げのきっかけ

長野県出身の小林さんは、就職・結婚・出産を経て、現在1男1女の母。出産後、東京都足立区から転居しさいたま市に住居を構えた。実家も遠方、知り合いもいない状況の中で、子育て中心の生活を送っていた。そんな折、小林さんはつながりを求めて子育て支援センターを訪れた。そこではママ向けの講座やイベントが行われていたが、参加したいと思いつつも、参加するためには抽選に当たらなくてはならない。その申し込みも往復はがきが必要で、そのはがきを買に行くところから始めなくてはならなかった。また、当時は子育て支援センターも少なく、歩いて通えるところにあるわけではない。車で行こうにも、駐車場は限られており、停められない。行きたいのに自由に行けないことが残念で、もつとつながることのできる場がたくさんあればいいのに……とっていたという。

子育て支援センターだけでは十分につながる機会を得られず、さいたま市が運営するサイト「子育てWEB」を見てみたところ、そこには子育てママのサークルがたくさん紹介されていた。小林さんもサークル活動に参加しながら、そういったサークルの多くが、講師や運営側も子育てママであり、その活動がボランティアで行われていることを知る。参加者が支払う参加費はわずかであり、これで儲かるのか、続けていけるのか、そんな思いが頭をよぎったという。ボランティアという形では、運営側に負担がかかり、運営側が息切れすれば続かなくなるところも出てくるのでは、という思いがあった。

数年が経ち、長女が幼稚園に入園すると、幼稚園でのお母さん同士の新しいつながりが生まれた。そのつながりの中で感じたのは、スキルを持ったお母さんたちが多いということ。元保育士の人やPCスキルの高い人……結婚や出産によって、第一線から距離を置いたお母さんたちだった。

「そのスキルを眠らせているのはもったいない。このスキルを社会的に活かせないか」……その思いが「ままの\*えん」を立ち上げるきっかけになった。

「自分が子育てしながら感じた『つながりは欲しい。でも、そういう場が少ない』という状況は、自分の子どもたちが成長して、子育てをするようになった時にも変わっていないのではないか、子どもたちの将来も含めて、さいたま

市を考えていこうと思ったんです。東京にいる時は、そういうことは思いもしませんでした。地域に目を向けるという意識もなかったのかもしれませんが。さいたま市に住居を構え、ここが子どもたちの『ふるさと』になる……そんな思いが、さいたま市という街への思いにつながったのだと思います」

### 起業コンペでの受賞を機に起業する

「ままの\*えん」の事業化にあたって1つの大きなきっかけとなったのは、コミュニティビジネス起業プランコンペ2011への参加であった。立ち上げから一緒に取り組んできたメンバーより、さいたま市商工会議所からの情報としてコンペの話聞き「ままの\*えん」でやろうとしていることは「まさしくコミュニティビジネス！」と参加を決めた。

『ままの\*えん』を立ち上げる時、この活動はサークルとかボランティアではなく『儲ける』事業にすることを目標にしました。それは、当時夫から『ボランティアではなく、お金を生み出さなくてはダメ』と言われていたことも影響していたかもしれません」

結果、そのコンペで「ままの\*えん」は優秀賞を受賞、内閣府地域雇用創造事業の支援対象事業となり、大きな一歩を踏み出した。受賞から半年、2012（平成24）年3月に合同会社「ままの\*えん」が、さいたま市で産声をあげた。

### 子育てママの力を活かした活動へ

「ままの\*えん」は、① 託児部、② ハンドメイド部、③ 講師部という3つの部活動を柱にしている。具体的には、ママ向け講座や地元企業とコラボレートし、さまざまなイベントの企画や運営を行っている。託児部では、その講座やイベントでの託児を行い、ハンドメイド部では、ママたちの特技を活かして手芸品づくりからその販売まで行っている。講師部では、ベビーマッサージや手芸、講演など、ママたちが講師となって活動している。当初の目的通り、ボランティアではなく、講座等で参加費を集め、コラボレートした企業からも収入を得て、その収益は、担当したスタッフで分配する、成果報酬制で対応している。

「ままの\*えん」を構成するのは、子育て真っ只中のママたち。基本的に、さまざまな企画に対して、チームを組んで運営にあたっている。

「子育てママが中心に進めていると、子どもが急に熱を出すこともあります。

そういう時、1人が責任を担う事業だとその人が参加できない状況になれば、企画やイベント自体の開催が難しくなります。『誰かに何かあっても大丈夫』という状況を整えることが重要で、だからチーム制で担当するスタイルが定着しているんです」

「ままの\*えん」では、その人が「これからどうしたいのか」を大事にしている。誰かに言われたことをやるのではなく、その人が「こうしていきたい」という思いを活かせる仕事のマッチングを考えているという。

現在、社員（小林さん含む）が2名、スタッフと言われる各部活動の担当者が7名、150名の会員と合わせると、約160名が「ままの\*えん」メンバーだ。人気講座になると、月に何回か定期的に講座を行って、毎回満員という講座もある。また、地元企業とのコラボレート企画も増えてきているという。企業とのコラボレートは「ままの\*えん」がプロモーションを提案し、企業の広報を行う要素もあるとのこと。そういう意味で、社員はいつもいろいろなところに顔を出して、営業活動をしながら、つながりをつくっているという。そのつながりが新たな出会いを運んできて、広がっていくことを実感していると話してくれた。

## インタビューを終えて

私自身も、子育て真っ只中の1人。産休・育休中は、子どもと2人きりの毎日で、気がつけば、誰とも話さないで1日が終わることもあった。そんな毎日が退屈で、児童センターや保健センターの企画に顔を出し、ママ友をつくり……常につながりを求めていた。だからこそ、小林さんの「ままの\*えん」立ち上げのきっかけとなる思いに共感を覚えた。でも、1人の母親としての思いを、さいたま市で暮らす子育てママに広げ、つながる場づくりや企画運営事業を立ち上げてしまった小林さんの実践力にはただただ驚かされる。「必要だよね！やってみよう！」そんな前向きな行動力とパワーが小林さんの魅力の1つ。イキイキと活動するママたちの輪が、もっともっと広がって、それが私たちやその子どもたちの「ふるさと」、さいたま市の力になっていくといいな……そんな思いを強くした。

（記 宗野 文）

---

「ままの\*えん」では、毎月さまざまなイベントや企画を行っています。  
「ままの\*えん」ホームページ <http://mamanoen.net/>

# やどかりの里の仲間たち・8



## ピアノをめぐる物語

見沼区中川にあるサポートステーションやどかりには、福祉施設には少々不釣合いな、でも調律の専門家いわく「小さいけれど質が良い」グランドピアノがあります。

1990(平成2)年4月、やどかりの里は多くの人びとの支援のもとに土地を購入、そして初めて「自分たちの城」「社会復帰の拠点」である施設を建設しました。この時に古くからの支援者であった故北村敦子さんから寄贈されたのがこのピアノです。家庭の事情から自宅でピアノを演奏することがかなわなかった北村さんには、「みんなが自由にピアノを弾く」そして「音楽に親しむ」という夢があったようです。この年の8月の「夏の終わりに」という第1回サロンコンサート開催を皮切りに、以来20数回の小さなコンサートを重ねました。メンバーや職員が豊かな音楽や文化にふれ、憩いのひと時となるとともに、ご近所の人やボランティアを招待したサロンコンサートは、やどかりの里の活動やメンバーを知っていただくよい機会となりました。その中心にはいつもそのピアノがあったのです。

それから四半世紀、ピアノは何人の手で奏でられてきたことでしょうか。子どもから距離を置いて自分だけの時間を取り戻したいと演奏するお母さん、ピアノは憧れ、自己流といいながらも「エリーゼのために」を弾く女性、ベートーベンのソナタを演奏する人もいました。そしてコーラス活動は今も継続しています。クラシックの楽曲だけでなく演歌や歌謡曲の伴奏の音が流れてくると、メンバーの要望に対する講師の先生の対応能力の高さに思わず笑みがこぼれます。また昨年からはやどかりの里コーラス隊が編成され、ピアノを囲んで歌の練習に余念がありません。ピアノはかつての夢や思いを、今に紡いでいく役割を果たしているのです。

(記 浅見 典子)

## よみさんぽ 日誌

## 彩の国21世紀郷土かるた ～見沼区かるた大会～

子どもたちの気合あふれる武道館！

2014(平成26)2月1日(土)、さいたま市大宮武道館にて「彩の国21世紀郷土かるた第8回見沼区かるた大会」が行われました。事前に、それぞれの子ども会から個人戦、団体戦に参加者をエントリー。日頃の練習の成果を發揮しようと闘志を燃やしていました。

参加する子どもたちは、所属する子ども会のゼッケンをつけ、頭にはハチマキ！観客席では、応援に駆けつけた参加者の家族が、子どもたちの善戦を見守ります。

「まがたまの～」と読み手が読み始めると、観客席、フロアが静まり返ります。子どもたちは、静かに、でも勢いよく、かるたの札を取り合い、なんとも言えない緊張感が漂っていました。普段は「静かに」といっても静かにならない子どもたち。この時ばかりは別人です……

予選リーグを終えると、子どもたちの数もぐっと減り、入賞が見えてきます。「ここまでよく勝ち残った！」子どもの健闘を讃える声があちこちで……

参加した子どもたちに感想を聞くと、「同点だったのに決め札を取られていて負けた。悔しい！」「来年は猛特訓して、絶対優勝したい!!」と、頑張ったからこそその思いが聞かれます。見守る親は、「子ども会に入って、かるただけでなく、子どもたち同士のつながりを築きながら、いろいろな経験が出来ていると思う」「郷土かるたの楽しさを知り、練習や大会を通して普段の友人関係だけでは学べない多くのことを学んでいる」と語ってくれました。

「郷土かるた」大会への参加を通して、「頑張ること」「やりぬくこと」「助け合うこと」……多くを学んでいる子どもたち。そんな子どもたちの姿を前に、この地域に暮らす大人の1人として、地域の子どもの成長を見守っていききたいと改めて感じるひとときでした。

(記 宗野 文)

# あの街 この街 俊一郎が行く・3

## F先生からの課題

### いいわけからの始まり

こんにちは！年始から本業のほうが慌ただしく、お出かけもままなりません。それでも、原稿の期日はやってきます。よみさんぽの編集者さんからは、やわらかな催促が来てあわてて見るものの、ネタがない……元々文章に長けていないので困ってみつつ、窓の外を眺めてもどうしようもありません。

それならば、ということで、今回は思い出話をしたいと思います。まだ、このエッセイが始まって3回目なので気が引けますが、お付き合いください。

### F先生からの課題

中学生のときの担任の先生は、F先生という国語の先生でした。まだ新米の先生は、年齢の近さもあって、ワクワクするような趣味の話、旅先での体験談を折々に聞かせてくださいました。また、図書館の本も、中学生が本来好みするような内容の本を多く導入してくださり、色々と影響を受けた先生です。

ただ、残念なことに私は、国語の授業が苦手。どうも読解力がなく、教科書の文章にも感情移入できずに好きになれませんでした。

F先生は楽しいのですが、どうにもこうにも憂鬱な国語の授業。今日も我慢の時間を過ごそうと臨んだある日の授業のことでした。図書館に集合をかけられ、5人ごとのグループに分けられました。グループごとに1冊の本を渡ししながら、先生はいいました。

「これから1か月かけて、この本を使って旅行記を書いてください。ルールは、5人それぞれが、病気や事故などのトラブルに遭う設定で、克服する様子も織り交ぜて、物語をつくってください」

### トーマス・クック

渡された本は、「トーマス・クック」というヨーロッパ全域を対象としている鉄道の時刻表でした。その時刻表や図書館にある地図を利用して、行き先やそ

とまつりしゅんいちろう  
**都祭俊一郎**

1975年生まれ。生まれも育ちも、東京の下町。  
エンジュの新築の他、保育園や幼稚園の設計（新築及び改修）  
を複数行う。（写真 新 良太）



の過程を時刻表に基づいて物語にしていくというものでした。

今まで、国語の授業と言えば、漢字の書き取りや教科書の読解が定番に思っていたので、自分たちで物語をつくるという課題にびっくりしました。そして、まだ見ぬ外国の日常をそのまま写し取ったかのような、詳細な時刻表にわくわくしながら課題に取り組みました。

### 旅とトラブル

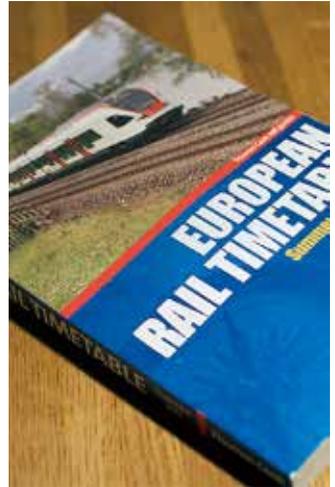
今となっては、課題の提出物も残っておらず、どんな物語をつかったか記憶にもないので、もったいないことをしたと思っていますが「トラブルも旅の楽しみである」という教訓を、この課題とF先生から教えられたように感じています。

そんな私が後年、大学生時代に1か月間のバックパックスの旅をヨーロッパで行ないましたが、F先生の課題の経験が生かされることになります。

その経験については、次回の続きとします。

中学生時代、理科の実験（化学部でした！）や、美術・技術科目を比較的、上手にこなしていたのですが、一方でそれらのレポートの出来栄えを見たF先生は「実験や制作はできるんだから、もう少し文章力があるといいんだけどね！」と、よく心配してくださりました。

編集者さんを困らせている現状を考えると、その心配は相変わらずのようです。（P9 写真：都祭俊一郎）



# あなたの街のやどかりさん

## グループホーム

### 誰もが安心して暮らせる街を目指して

#### 「グループホーム」をご存知ですか？

皆さん、「グループホーム」をご存知ですか。そう問われた時、高齢や認知症の人が共同で暮らすグループホームをイメージする人が多いかもしれません。実は、精神障害のある人が地域で安心して暮らす場としてもグループホームがあります。その名称から、複数の人たち（グループ）で一軒家（ホーム）に暮らす形態かと思いきや、そうではありません。街の中の賃貸アパートをお借りして、精神障害のある人たちが互いに支え合いながら暮らしています。

#### 地域で“安心”して暮らす

精神障害のある人のグループホームの歴史は長く、やどかりの里では1992（平成4）年から活動が始まっています。精神科病院には、病状が良くなっているにも関わらず長期に入院している人たちが多くいます。そうした人たちが、地域で“安心して暮らせる場”として、グループホームは誕生しました。

やどかりの里は見沼区、大宮区、浦和区を中心に複数のグループホームを運営し、現在は市内14か所のアパートで50人以上の人たちが暮らしています。さり気なく街に溶け込み、1人の住民として暮らす、そんなことを大切にしてきました。

#### 人と人との“つながり”の中で

グループホーム入居者第1号の須藤守夫さんは、見沼区にあるグループホームで暮らしていました。入居当時の1992年、精神障害があると賃貸物件を借りることが難しい時代でした。須藤さんは入居当初、さまざまな不安を抱えていました。しかし、ご近所の人と挨拶を交わしたり、ごみの処理を手伝ったり

## 第9回

障害のある人たちが地域で安心して暮らす場所の1つに、グループホームがあります。やどかりの里では、1992（平成4）年から障害のある人たちの地域生活を支えるグループホームをつくってきました。

する中で、次第に交流が深まっていきました。地方に行った時にはご近所の人にお土産を渡したり、家に招いてお酒を楽しんだり、自分が病気になった時には食事を運んでもらったり……日常の暮らしの中で、ご近所の人との“つながり”が生まれていきました。そして、須藤さんの不安な気持ちを安心感へと変えていきました。

### 街の中でさりげなく、そしてあたりまえに……

精神科病院に長期に入院していると、私たちにとってあたりまえなことがあたりまえでなくなります。友人と語り合ったり、旅行に行ったり、充実した時間を過ごすなどのさまざまな経験から遠ざかり、人とのつながりも希薄になっていきます。だからこそ、1人1人の「こうしたい」というあたりまえの願いを尊重し、人とのつながりを創りながら、「その人らしい暮らし」を築いていくことを大切にしています。

あなたのお住いの近くにも、精神障害のある人が暮らしています。街の中で自然に、地域の人と支え合いながら、これからも誰もが安心して暮らせる街をつくっていきたいと思っています。

（記 三石麻友美）

### ヘルパーさん募集！

グループホームでは、障害のある人たちの身の回りのお手伝いをしてくださるヘルパーさんを募集しています。障害のある人たちと「地域で生き生きと暮らす」ことをいっしょに考えてみませんか。

### お問い合わせ

048-643-3455（担当 渡邊）

## 地域でつながりを紡ぐ

### 増澤 悦子さん



4年前、大宮区堀の内町にて「みなみハウス」<sup>注)</sup>の活動が、地域のつながりを力にスタートしました。つないでくださったのは笑顔の素敵な増澤悦子さん。増澤さんに、地域での活動などお話を伺いました。

#### 女性メンバーとの出会いから

「私のやどかりの里との出会いは10年前にさかのぼります。ヘルパーとして、ある女性メンバーのお宅に訪問していました。明るくお話好きな方でした。彼女からやどかりの里のバザーのことも聞き、バザーへ足を運んだこともあります。傾聴ボランティアの存在を知ったのもそのお宅でした。ヘルパーとしてケア会議

などに参加する中で、大宮区生活支援センターのやどかりの里の職員の人も顔見知りになっていきました」

#### 地域を改めて知ることに

「6年前には民生委員を引き受けることになりました。地域の方から色々な相談を受け訪問します。困っているのにどこにもつながりのない方に出会うこともあり、地域にはさまざまな人が住んでおられることを実感するようになりました。同時に、困っている人がいないかを気にかけ、そういった人たちを応援したいと思っている人が、実はたくさんいることもわかりました」

#### あたりまえだからこそ自然に

「私が民生委員として地域の人たちを支える活動をしていた頃、みなみハウスの活動も始まりました。み

注) 障害のある人たちが住まう共同住居型のグループホーム。ボランティアなど地域のサポーターの人たちの力も借りながら、1人1人の「その人らしい暮らし」を支えている。

なみハウスができることになったと聞き、素敵なことだなと思いました。地域で暮らすのは誰にとってもあたりまえなことですからね。何か困ったことはないですかと聞くと、朝食づくりの担い手や世話人が足りないとのこと。そこで人脈を駆使して探し、地元の主婦の方たちをご紹介することができました」

増澤さんは、なんとわずか1週間で、お手伝いしてくださる主婦の方たちをご紹介してくださったのです。その人脈の広さとつながりの深さに驚きました。

「みなみハウスでは、私がピンチヒッターを引き受け、朝ごはんを作ったり、月に1回ほど非常勤として働いたり、関わりが増えていきました。メンバーの方はカラオケが好きな人が多く、機械を持参して楽しんだことも印象に残っています。メンバーの皆さんはとても素直に接してくれるので、何だか私も正直な気持ちになれるのでした。そういったこともあって、私は毎回気持ちよく帰っていました。

また、私がメンバーといっしょに散歩していると、地域の人と挨拶を交わします。そんな日々のことから、自然とご近所さんにみなみハウスのことを知ってもらえたように

思います。地域で暮らすメンバーの方のことを、案外近所の人たちも見守っているものなのです」

やどかりの里のメンバーの中には、最初地域で暮らすことに慣れない人もいました。そんなメンバーの人と近所の方とをつなぎ、互いに困った時は助け合える、顔の見える関係性を築いてくださったのも増澤さんでした。障害のある人もない人も、地域でいっしょに、あたりまえに暮らすことを、増澤さんは陰ながら支えてくださっていたのです。

### 自らも変化して……

「今思えば、民生委員を引き受けたのもやどかりの里に関わっていたからではないかと思うのです。私の中で、自然に『地域の役に立ちたい』と思う気持ちが芽生えていました。考え方が柔らかくなったというか、多様なものの見方が出来るようになり、それは自分の中に起きた変化と感じています」

増澤さんとの出会いをきっかけに、やどかりの里の地域でのつながりは大きく広がりました。

地域で人と人とを柔らかくつなぐ増澤さんの活動は、これからも続きます。 (記 森本 紀子)

# インフォメーション

大切な衣類は安心安全の

**クリちゃんマーク**

のお店へ

クリちゃんマークはクリーニングの専門店のしるしです



## 春日ランドリー

〒337-0013 さいたま市見沼区新堤 152  
東宮下団地 19-5  
TEL 048-685-0811

労働保険・社会保険の手続き、ご相談は  
**浅沼社会保険労務士事務所**

社会保険労務士 浅沼 智

〒353-0001 志木市上宗岡 4-26-15  
電話 048-487-6161 FAX 048-487-6168  
E-mail:skiki-asanuma@sand.ocn.ne.jp



人気の月に1度のご当地メニュー

食事宅配サービス **エンジュ**

さいたま市見沼区南中野 286-1 ☎ 048 (686) 7875

家庭の味を  
お届けします  
管理栄養士の立てた献  
立てで安心、おかげや  
きざみ食も対応します。

**OA機器  
事務機器  
オフィス用品  
ソフトウェア** のことなら

主な取扱商品

印刷機・複合機・FAX・事務用品・幼稚園ソフト

地域に根付いて36年  
**教育産業株式会社**  
<http://www.kyouikusangyou.co.jp>

さいたま市見沼区南中野301-1 TEL: 048-685-0855  
FAX: 048-685-0726

## 新刊案内



**あきらめない  
恋愛と結婚**

精神障害者の体験から

渡 修, 山田 明,  
和田 公一, 和田千珠子 著

やどかりブックレット編集委員会 編

本体価格 1,000 円+税

## やどかり出版

TEL 048-680-1891 FAX 048-680-1894  
〒337-0026  
埼玉県さいたま市見沼区染谷 1177-4

# 急募

やどかりの里では、地域で暮らす精神障害のある人への生活支援・労働支援業務に関心のある精神保健福祉士の方を募集しています。

詳細は下記をご確認ください。

[http://www.yadokarinosato.org/  
DATA-F/kyujin2014-2.pdf](http://www.yadokarinosato.org/ DATA-F/kyujin2014-2.pdf)

048-686-0494 (担当 浅見 典子)

-すべての人々が人間らしく豊かに育ちあえる地域づくりをすすめるために-

# 社会福祉法人 鴻沼福祉会

こころを込めた手づくりの品をぜひ一度お試しください



いちず  
とうふ屋 一豆

TEL 048-854-8000

FAX 048-854-3538

さいたま市中央区上峰2-10-20

つばさ共同作業所とそめや共同作業所が手がける、国産・手づくりにこだわった本格とうふ。宮城県産高級大豆「ミヤギシロメ」を100%使用し、オリジナル惣菜も人気です。大豆本来の濃厚な甘さとコクを味わえる“小さなぜいたく”を食卓にお届けします。

## きりしきのパン

TEL 048-854-6910

FAX 048-854-6942

さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内

きりしき共同作業所のパンは食の安全・安心にこだわり、原材料に国産小麦粉を使用しています。(一部商品を除く)

この道30年の職人とともに手がけるパンは、少し懐かしい味と香りがします。



## 弁当屋 いちず

TEL・FAX 048-684-1257 さいたま市見沼区染谷2-145



そめや共同作業所のお弁当は旬を感じる手づくり弁当です。野菜をたくさん取り入れ、手が込んでいると女性に大人気です。

### 鴻沼福祉会から読者の皆様へ

- 鴻沼福祉会では、袋詰め・部品組み立て作業や清掃作業、資源回収など、地域の企業様のニーズに応えるべく様々な仕事を受注しています。働くことをおして障害のある人がさらに輝けるチャンスを求めて新しい仕事にもチャレンジしつづけています。
- 障害のある人たちの就労支援、生活支援、相談支援のスタッフを募集しています！ 問い合わせ先：048-854-6890 (担当オガワ)

### 鴻沼福祉会事業所一覧

●本部・事務局 埼玉県さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内 TEL:048-854-6890 FAX:048-856-0313

- 《はたらく》●つばさ共同作業所(中央区) ●あざみ共同作業所(見沼区) ●そめや共同作業所(見沼区) ●きりしき共同作業所(中央区)  
●さいたま障害者労働センター(桶川市)
- 《くらす》●第1たかさご荘 ●第2たかさご荘 ●第3たかさご荘 ●かえてホーム ●かりんホーム ●よつばハイツ  
●なつめホーム(以上、中央区) ●のぞみホーム(見沼区)
- 《ささえあう》●中央区障害者生活支援センター栄夢 ●地域活動支援センター栄夢(以上、中央区)  
●見沼区障害者生活支援センター来人(見沼区)



## 作者紹介

写真家 野口勝宏さん

東日本大震災後「福島の花の美しさで世界の人々を笑顔にしたい」と、フェイスブックで連載している。7月には「ここは花の島」(帯文/谷川俊太郎)IBCパブリッシングから作品集が出版された。<http://noguchi.jpn.com/>でも作品の閲覧可能。

表紙：ヤマブキ

春風に山吹の花が撓り里山を彩る季節。

眩しいほどの日差しを吸い込んだ黄色と、萌え出した緑が爽やかな明日への予感をもたらします。

題字 宗野文さん

学生時代から書道が大好きで、子育て中の今、我が子とともに習字に再挑戦中。やどかりの里の作業所「すてあーず」所長。見沼区南中丸在住。

大宮見沼よみさんぽ 第9号

発行 2014年4月(春号)

編集 「大宮見沼よみさんぽ」編集委員会  
〒337-0026 さいたま市見沼区染谷1177-4

Tel 048-680-1891

Fax 048-680-1894

E-Mail [johokan@yadokarinosato.org](mailto:johokan@yadokarinosato.org)

<http://www.yadokarinosato.org/>

発行 公益社団法人やどかりの里

理事長 土橋敏孝

印刷所 やどかり印刷

### \* 弁当配達パートさん募集!

やどかりの里が運営しているエンジュでは、高齢者向け宅配弁当サービスを行っています。昼食弁当を配達するパートさんを募集しています。(主に見沼区周辺を配達します) 曜日/火・水・金 時間/10:45~13:00 時給830円

エンジュ(見沼区南中野286-1)

TEL 048-686-7875(担当 永瀬恵美子)

### \* 弁当の調理・配達パートさん募集

やどかりの里が運営しているまごころでは、日替わり弁当の製造・販売を行っています。昼食弁当の調理と配達をするパートさんを募集しています。(主な配達地域は中央区周辺)

曜日/木・金 時間/8:30~12:30

詳細は直接お問い合わせください。

まごころ(中央区本町東5-9-7)

TEL 048-857-2783(担当 檜山<sup>ひやま</sup>うつき)